

# 第3回福崎町総合教育会議会議録

開催日時 平成28年2月26日(金) 09時30分～10時35分  
開催場所 福崎町サルビア会館 2階 講義室  
出席委員 福崎町長 橋本省三  
福崎町教育委員会 教育長 高寄十郎  
教育委員 石川 治、桑谷祐顕、藤本照子、谷口喜久美  
事務局 福崎町教育委員会学校教育課長 山本欽也、社会教育課長 大塚久典、  
学校教育課副課長 岩木秀人、学校教育課主査 宮本江利子  
傍聴人 なし  
オブザーバー 福崎町総務課秘書広報係長 田路聡里

(司会) 学校教育課長 (議事進行) 橋本町長

## 1. 開会

(山本課長) 橋本新町長となり、初めての総合教育会議となります。今回、意見交換を中心にすすめていただければと思います。

## 2. あいさつ

橋本省三町長からあいさつがありました。

(橋本町長) 総合教育会議そのものについては、平成27年度からということで、昨年の5月、それから12月と開いていただきました。大綱もつくっていただいていると思います。私が申すまでもなく、こういったような形の中で教育における分野での大きな変革がもたらされるようになりました。そういう関係も含め、基本的には教育委員会そのものが今までと同じような状態像の中で推進されるものと思います。私自身もさらに取り組みますし、教育長を中心とした形の中で忌憚のないご意見をいただき、それらを福崎町の教育行政の推進に充てられるようになればと思います。よろしくお願いたします。それでは、本日の次第に従いまして進めていきたいと思っています。

## 3. 議事録署名人の指名

本会の署名委員として橋本町長から高寄教育長・谷口委員を指名しました。

## 4. 協議・調整事項

- 意見交換
- その他

(橋本町長) それでは、協議・調整事項に入らせていただきます。意見交換であります。意見交換の中身については、平成28年度学校教育課の主要事業、また社会教育課の主要事業についてということで、資料2ページに従ったかたちで、平成28年度教育委員会を取り巻く主要事業にご意見を賜りたいと思っていまので、よろしくお願いたします。それでは学校教育課からお願いたします。

(事務局) 学校教育課としましては、一番目に就学前教育・保育としています。平成27年度からこれまでの幼稚園・保育所を幼保連携型認定こども園に町内公立4園、私立2園とも移行いたしました。そのなかで平成27年度は手探りのような状態もあったのですが、ほぼこの一年間に認定こども園として教育・保育がすすめられたものと

思っています。平成28年度につきましては、さらに今年の実験・実績等をもとに、より充実した就学前教育・保育を進めていきたいと思っております。体制としては平成27年度とかわりません。ただ、保育料等については、国の方からいろいろな低所得者・ひとり親世帯への軽減施策が示されているので、そのあたりではかわってこようかと考えています。二番目の学校教育ですが、小中学校における不登校学習支援対策ということですが、いろいろ小学校・中学校ともに問題をかかえた児童生徒、発達障害気味の児童生徒も増えている状況です。その中で、県のほうから加配教員をいただいているところもありますが、なかなかそれだけでは対応できない部分もありますので、福崎町のほうから不登校指導員であったり学習支援員、介助が必要な児童生徒に対しては介助員を町独自施策として配置していただき、学校教育への支援を行っております。平成28年度も平成27年度とほぼ同じような体制で支援をしていきたいと考えています。スクールカウンセラーについては、県が配置しているものですが、こちらについても平成28年度も今年度とほぼ同じ体制ですすめていきたいと考えています。小中学校における体験学習としては、大きなものとしては小学校では自然学校の体験活動事業です。例年、南但馬自然学校で実施しています。平成28年度も同じような計画をしているところです。中学校で大きなものとしては、トライやる・ウィーク推進事業です。こちらも平成27年度と引き続いて同じような体制ですすめていきたいと思っております。国際教育推進事業については、ALT2名の配置によりまして、英語事業の推進、これ以外にもGATEによる事業もすすめています。学校給食共同調理事業ということですが、来年度は給食費の値上げということを予定しています。前回の消費税5%から8%に上がった際にも給食費については据え置きをし、献立の工夫で対応してきましたが、その消費税の影響分、それから物価の上昇分等もあり、平成28年度からは5%程度の値上げを予定しています。子育て支援ですが、子育て支援施設として福崎町では子育て支援センターと東部・西部の子育て学習センターを設置して事業をすすめています。子育て支援センターでは、子育て支援の統括的な事業を行っており、各学習センターではそれぞれ親子が集まって、西部ではグループ活動等を行っています。東部ではセンターに来て、親子の交流というような事業をすすめています。利用者数については徐々に増えており、有効に活用されているものと思っております。学童保育園については、体制としましては、平成27年度と変わりませんが、開園時間をこれまで午後6時までとしておりましたが、幼稚園・保育所等と同じ午後7時までに開園を伸ばしてほしいという要望もあり、平成28年度からは午後7時までの開園という方向で進めたいと考えています。放課後こども教室については、国のほうも力をいれていて、学校が終わったのちに一定時間、学校等で児童をみるという活動として、田原小学校・八千種小学校で実施する予定をしています。福崎・高岡では現在のところ要望がありませんので、この田原・八千種2校での実施を予定しています。学校教育課は以上です。

(橋本町長) 学校教育課からの報告が終わりました。1点ずつ行きたいと思っております。まず、就学全教育・保育について、認定こども園における就学前教育・保育といったような形の中で学校教育課から報告がありました。とりわけ保育料の関係については、低所得者対策ということがありまして、国のほうでは、第1子、第2子、第3子以降、県においても、この国の制度からはずれた形の低所得者に対する対策という事柄であります。そういった事柄にあわせたような形の中で、子ども・子育て支援というような形が示されてきました。示されたその中身については、まだ詳細な事柄がわかっていませんので、平成28年度当初予算にはなかなか反映しにくいという形ですが、国にはそれらの予算がありますので、詳細な事柄が今後示されてきて、4月からの保育料等には反映できるのではないかと考えています。所得判定を含めた形の中で、山本課長、保育料の決定は何月頃になりますか。要は、親御さんの所得に応じて保育料が決定してくるので、その所得がわかる時期はいつですか。

(事務局) いまの保育料の決定については、平成28年度ですと平成26年度の所得をもとに、8月までの保育料を決めます。平成27年度の所得が6月までには決まりますので、そのデータをもとに9月以降の保育料を再算定して決定する形になります。

(橋本町長) 国が示している保育料の低所得者対策や県の示す低所得者対策については、資料等を示すことはできますか。

(事務局) はい。今日、これに引き続いて教育委員会を開催する予定なのですが、その資料としては用意しています。

(橋本町長) 市町懇話会で私がもらってきて回覧した資料が一番小さくてコンパクトでいいのかなと思います。わかりました。認定こども園、就学前教育についてなにかご意見はございませんでしょうか。

(高寄教育長) のちほどの教育委員会で報告させていただこうと考えているのですが、今年度募集をしましたところ、1歳児の入園希望者が多くありまして、福崎幼稚園は満杯、田原幼稚園は予定をオーバーした申込みがありました。私どもとしても定員を少しでも増やしたいと考え、定員枠を15から18へ増員しました。しかしながら、これでも希望者を全部受け入れることができませんでした。その結果、優先順位というのがありまして、例えば母子家庭であるとか、去年もこの園に通っていたとか、それによって決めていきましたが、優先順位も一緒という方が最後に7名残りました。7名のうち、結局5名を田原幼稚園へ、あと2名を田原幼稚園以外のあいている幼稚園へまわっていただくという抽選せざるを得ない状況になりました。当日は、お一人はご辞退されまして、6名来られまして、6名のうち5名を田原幼稚園へ、残り1名の方には申し訳なかったのですが、第2希望のほうにまわっていただくということで、先日抽選をいたしまして、結局、お一方だけが田原幼稚園を希望されていたのですが、私どもも力いっぱい努力したのですが、田原幼稚園で受け入れることができなくて、第2希望へまわっていただくことにしました。この方は、現在民間のほうの託児所に子どもを預けておられて、来年も引き続きそこに預けて田原幼稚園が空くのを待ちますということで一応ご了解いただいたという状況がありました。他の0歳・2歳・3歳・4歳・5歳にはまだ空きがあるのですが、1歳児の福崎幼稚園・田原幼稚園のみがいま満杯の状況にあるということで、抽選ではずれた方には申し訳なかったのですが、町全体で考えれば、それだけたくさんの方が幼稚園に期待してくださっているというのか、選択肢が広がったということで、ある意味ではよかったのではないかと考えています。

(委員) そうすると、世間でいわれている待機児童というのは、今のところ福崎町ではまだないままと認識していいのですか。

(高寄教育長) 待機児童はございません。ただ、希望する園ではなく、田原はダメですが八千種ならOKですよ、高岡ならOKですよ、サルビアならOKですよ、ということで、受け入れ枠にはまだ余裕がありますので、俗にいう待機児童はゼロでございます。

(委員) 確かに希望するところに行きたいというのは、その後の小学校等にそのまま上へ上がっていくからそこを希望されるのでしょうか。空いているだけというなら、八千種や高岡を使ってもらえば非常にいいのだらうと思いますが。

(高寄教育長) 今回の場合も2歳児になればまた今年度定員が広がりますので、今年はダメですが来年になれば定員が多くなりますので、行ける可能性が高くなります。ただ、その優先権を今与えるわけにはいかないのです。今後この1年でどういうふうに変っていくかわかりませんので。確かに選択肢が広がったのですが、保護者はどちらかといえば経済的なことを優先的に考えられて、どうして子どもを預けるのが保育料が安くあがるかということを優先して考えておられる実態があることも事実です。しかし、私たちは子育て支援をしていくのですから、子どもを預けながら

働き続けられるという方々を支援していくことが大事なことであろうかと思っています。

(橋本町長) 他にございませんでしょうか。次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。まず「2 学校教育の1) 小中学校における不登校・学習支援対策」について、それぞれ相談員等の配置とスクールカウンセラー等、県もこういった形の中での枠を拡大されているそうです。そういった形の中で、町長部局における予算配分についても、これらについては、教育委員会の要望どおりという事柄にしております。この事柄について、なにかございますか。子どもは減っているのですが、こういったような形の対応の在り方は増えているという状態像で、こういう相談員・支援員は年々人数が増えてくる形になっています。

(高寄教育長) 町当局のご理解により、きめ細やかな学校教育の指導ができています。特に先生方を支援する体制としては、先生方の満足は100とは言えないでしょうが、100にほぼ近い支援ができていないのではないかと思います。

(委員) スクールカウンセラーは今現在ほどの学校にも配置されているということではないのですか。

(高寄教育長) そうです。これは県費派遣ということで、現在福崎町には3名配置されています。福崎西中と高岡小、福崎東中と田原小、福崎小と八千種小がセットという形で3名のスクールカウンセラーに来ていただいています。将来的には常駐をすべての学校で、となれば一番の理想ですが、県下にはたくさんの学校がありますし、まだまだ福崎町よりも困難な地域もたくさんあるように思いますので、福崎町としては毎年プラス1名、今年度も4名配置をお願いする要望を県へ出しています。それが認められるかどうかはまだいまのところ返事がきていません。

(橋本町長) 次の体験学習に移らせていただきます。これは例年どおりですか。

(事務局) はい。自然学校も小学校での大きなイベントでございまして、子どもたちもこの経験をすることで、一段子どもなりのステップを上げるような活動になっています。

(橋本町長) 自然学校は、貝原知事のときに提言されたのですか。全国的にも兵庫県では一番この部分については進んでいます。あとトライ・やる、これも兵庫県が一番最初でしたか。

(高寄教育長) 特に最近の子どもたちには体験が少ないということから、体験活動を増やそうという狙いがここに 있습니다。特に、トライやる・ウィーク等は神戸のあの例の事件がありました。あの事件をきっかけに、子どもたちに社会のようすを知ってもらおうということから、全国に先駆けて、1週間学校へ登校せず、地域で育てていただくという取組をしています。この取組の成果というのはかなりありまして、全国的に兵庫にならえという風潮がありまして、いまほぼ全国の都道府県で1週間とはいかなくても3日とか2日とか、職場体験をさせる事業が展開されています。また、兵庫県ではキャリア教育ということで、高校まで体験教育を伸ばして取り組んでいます。

(委員) この自然体験、トライやる、わくわくはわかるのですが、環境体験というのは具体的にどういうことを表しますか。

(高寄教育長) 本来は自然学校を5泊6日でやっていましたが、ちょっと長いので月曜から金曜までの4泊5日に切り替えてもいいですよ、そのかわり足らずの2日分を地域で自然環境教育しなさい、というものです。例えば、ため池の清掃をされるときに一緒にいって、そこにどんな魚介類が棲んでいるとか、そういうふうな体験をさせるというのがこの分野です。

(委員) 子どもたちは楽しいみたいですね。池さらいとか。

(橋本町長) 高岡もやりました。

(高寄教育長) 最近は、川で遊んでいても池で遊んでいても「危ない、危険だ、やめな

さい」ということが優先されている世の中になってしまいましたので、やはり子どもたちに池で魚取りをすとか、川で泳ぐとか遊ぶとかいう体験がほとんどできない状態になっています。

(委員) 楽しいということと同時に危ないんだということ、ここを実際に下りてみたらこうなるだろうということを実際に体験できます。土手でこうなると落ちるでしょうということはいくら教えてもやっぱり近づく子は行くし、おもしろがったら行くでしょう。実体験ができるということはいいことです。そういう環境が福崎町には残っているということなので、大いにそれは使ってほしいと思います。

(委員) 私は孫が自然学校でお世話になりました。普段できないことがいろいろできたり、普段の友だち関係ではないこと、いまおっしゃったようなハプニングがおこったときの対処の仕方とか、友だち同士のお付き合いの仕方とかを学んで帰ってきたようです。だいたい毎年同じところへ行くのですか。

(事務局) そうです。今は南但馬自然学校を利用しています。

(高寄教育長) 今年も自然学校の視察に教育委員会で行かせていただいたのですが、その次の日でしたか、ボートを漕いでいて海へはまったという子がありました。危ないことは危ないのですが、逆にいえば貴重な体験をしたと思いますし、それこそ自然の中でそういう体験をしたことはその子の人生にとって、こういうことをしては危ないんだなということが体験をとおして身につけていったかなと思います。先生は気を遣われたかもしれませんが、広い意味ではその子の教育にはなったのではないかと思います。

(橋本町長) それでは国際教育推進事業について、ALT 2名とGATEというような事柄で対応していきたいということですね。

(高寄教育長) 福崎町もありがたいことにALT 2名の配置をいただいております。一般、町の監査委員から監査のときにALTの夏休みの勤務はどういうふうになっているのかというご指摘をうけまして、これからはALTにも夏休みに小学校で英語教室をするか、あるいは学童保育園へ行って子どもたちとかかわってもらうとか、それともこども園へ行って、夏休みもこども園は子どもは来ていますから、子どもとかかわってもらうとか、そういう形で夏休みも福崎町の子どもたちにかかわってもらう、そういう取組を今年の夏からしていきたいと今のところ考えています。

(橋本町長) なにかございませんでしょうか。

(委員) 今年はまだ1人替わる年になりますね。

(高寄教育長) そうです。

(橋本町長) 一番最初に福崎高校のALTではなく英語指導助手という形でジョンくんが、香寺の歯医者さんの裏側に下宿していて、その人にやってもらっていました。その方は日本に長く住んでおられて、奥さんも日本人で、日本語も堪能なので、反対に具合が悪いということもありました。それと、国庫補助・県補助の関係でも、ALTの場合は地方交付税という形で配分をうけるということで、そういう対応の在り方に切り替えをしていきました。過去の歴史でいえばそういうことです。それと、GATEの話がでていますが、福崎町は非常に英語等について力を入れてきたということを、嶋田町長もそういうことで、協力しようということですから、こういう方々に参加していただいています。近年は幼児に対する英語教育・英語指導、英会話等々のそういう要望もあがってきておまして、これは教育委員会には直にはそういう要望があがってきていますか。

(事務局) 具体的にはありません。

(橋本町長) 都市部の私立の幼稚園であるとか就学前教育されているところでは、そういうことに対応しているので、今後は福崎町にもそういう要望があがってくる可能性はあろうかと思えます。

(高寄教育長) 2年後の全国学力・学習状況調査には、中学校3年生にどうやら英語の

テストが入ってきそうな噂も流れてきています。今は、国語・数学、そして何年かに一度理科をやっています。今度それにまた英語が理科と1年交替か、ちょっとそのあたりのことはよくわかりませんが、近い将来、全国学力・学習状況調査で英語が中学校3年生で入ってくる可能性が高まっているという状況にあります。福崎町は、小学校からALT2名とGATEによる学習指導とかいろいろやっているの、その成果が結果として現れないと税金の無駄遣いになり申し訳ないと思います。GATEの先生にいわせると、福崎町の英語のレベルは高いと言葉ではいただいておりますので、それが数字で実証されればうれしいのになと思います。今は不安より楽しみのほうが大きい状況です。

(委員) ALTやGATEが推進しているのは会話を楽しむことを推進しているのではないのですか。学力調査では書面でいくと文法が中心になってくるのですよね。そのときに、福崎町はこれだけお金をかけたのにできていないというのも、また違ってくるのではないかと思います。

(高寄教育長) そうです。ただ、他の地域に比べたら小さいときから英語に親しむことはかなりできていると思います。書くという問題抜きにして、英語に親しむ・慣れるというスタートの時点が少し高いところからスタートしているので、そのままそれが書くことにつながっていくのではないかなと思います。

(橋本町長) 続いて学校給食共同調理事業に入らせていただきます。消費税の関係を含めた形で据え置きとしていた部分を含めて、給食費の改定を行いたいという報告でした。これらについて、何かご意見ありましたらどうぞ。また反対に、幼稚園は牛乳パックの関係で給食費が値下がりするということがありました。先生がパックでコップについていくという形で対応するというところで、そのあたりの在り方が若干変更が加えられているというところです。学校給食は地産分を使いましょうということと、もちむぎの関係を含めて、一般会計からも対応させていただいています。米飯給食は週5日のうち4日ということで対応させていただいています。これも好評であると報告はうけています。

(高寄教育長) 食の安心安全という立場からいっても、学校給食における地産地消の率を少しずつあげていくことも大事なことだと思っています。

(橋本町長) 子育て支援について、子育て支援施設については今までと同様、学童保育園の運営については、午後6時から午後7時まで開園時間を延長する形を整えたいという報告でした。幼稚園・保育所と同じ時間帯までお預かりするという対応についてです。料金体系についてはどうなりますか。

(事務局) 開園時間を午後7時までとしますが、保育料は変わりません。

(高寄教育長) 町長の子育て支援の中の医療費の話をみなさんにしてあげてください。

(橋本町長) 今まで福崎町は一番最初に小野市・西宮市と同様に中学校3年まで医療費の無料化を図らせていただいておりますが、一方では所得制限が県と同様の所得制限となっていました。これらについては、平成28年度、この所得制限を撤廃いたしまして、中学3年生まで完全医療の無料化を図りたいということで、平成28年度当初予算に医療費助成として計上させていただいています。国のほうからのペナルティは兵庫県自体も受けていますし、兵庫県枠を含めた形でもやっていますので、そういう形ではペナルティをいただくこととなります。いわゆる保険をたくさん使うこととなりますので、それらに対して国も一定の割合で負担をしていますので、それらを満額交付するわけにはいかないということとなります。しかしながら、兵庫県においては、中学3年生までの完全医療の無料化は約半分の自治体が行っています。神崎郡では福崎町が最初に取り組んだわけですが、現在は神河町が完全医療の無料化をしまして、福崎町が2番になったということです。そういう推移がございます。いずれにしましても、人口減少時代を迎えて、子育て支援の一環として、こういったところにも自治体間の競争が表れているということです。

もうご承知のとおり、播磨圏域における成長戦略で、赤穂市が入って8市8町で広域的な取組をやりましょうということですが、一方では自治体間の競争といったような形の中で、いわゆる人口の取り合いといったようなことが背景には出てきています。そういう中での取組をやっいてこうということところです。8市8町の播磨圏域の成長戦略の話となると、あとで社会教育課の中でも出てくるとは思うのですが、8市8町の図書館の相互利用において、新聞にも載っていましたが、福崎町の図書館を使いたいといわれる方が一番多かった。通常なら姫路の中央図書館が一番多いのではないかと思っていたのですが、私どもの図書館が一番でした。やはり書架のああい配置の在り方と、カウンター内の職員の対応の在り方がよかったのではないかと思います。2番目は太子町でした。姫路市さんの場合は蔵書は多いと思うのですが、ある意味では使いにくいのかもかもしれません。福崎町の場合は、蔵書も多いですし、利用者も多いです。学校教育課関連の報告について、全体として何かありませんか。のちほどご意見ございましたらお願いいたします。それでは社会教育課長、主要事業について報告をお願いいたします。

(事務局) 失礼いたします。2月1日付で社会教育課長を拝命いたしました大塚です。なかなか知識不足で、みなさまに教えていただくことばかりに最初はなると思いますが、よろしくお願いいたします。座って失礼いたします。平成28年度の社会教育課の主要事業です。まず、文化講演会です。秋まつりにあわせて例年行っております。通常900千円の予算をいただいて実施しておりますが、平成28年度は町制60周年記念として、著名な講師による文化講演会を、ということで2,000

千円をいただく予定となっています。候補としましては、池上彰<sup>いけがみあきら</sup>さんや林修<sup>はやしおさむ</sup>さんというビッグネームを検討したのですが、なかなかテレビに全面にでてい

スケジュール調整がむずかしく、現在、教育評論家の尾木直樹<sup>おぎなおき</sup>さんを予定して調整をすすめていただいております。柳田國男・松岡家記念館運営事業です。「井上通泰展～和歌を愛した眼科医～(仮)」とした記念展等をしていきます。柳田國男検定事業です。初級・中級に加えまして、今年度は上級検定を実施いたします。上級検定の最高得点者1名に、遠野の旅を進呈する予定となっています。三木家公開準備事業です。平成27年度に主屋の工事が完了いたします。平成28年度は消防設備工事等をいたしまして、平成29年度の主屋公開に向けた準備として、三木家住宅のパンフレットや屋敷図レプリカ等を作成いたします。あと、展示ケース等の備品を購入し、展示にむけてすすめていきます。スポーツ教室開催事業です。ヴィッセル神戸のサッカークリニックやスケートボード初心者講習会等を開催し、さるびあドームを活用していきたいと考えています。簡単ですが、以上です。

(橋本町長) 社会教育課長からの報告が終わりました。冠として町制60周年記念という形で例年秋まつり初日に行っております文化講演会をそういう形で開催したいということ。教育解説者の尾木ママということで、笑いもあり真面目な話もありということ。やっていただけるかなと思っています。開催日は11月5日(土)ですか。

(事務局) 秋まつりの日はまだ決定していません。

(橋本町長) 11月の第1土日に開催するのが今までのやり方ではなかったかと思えます。

(委員) 先日担当に10月の末か11月の始め、どちらが固いかとたずねましたら、10月29日・30日でしょうとも言っていました。

(高寄教育長) 11月5日・6日の方が可能性が高いかもしれません。

(橋本町長) 消防は、11月6日、非常呼集が必ずありますので、それとあわせながら行うことが多いかなと思います。どちらで調整していますか。

(事務局) おそらく2週どちらもおさえていると思います。まつり運営委員会で決定しないと日にちが確定できないので。

(橋本町長) 尾木ママのスケジュールにあわせるのも一つです。とれるかとれないかわかりませんし。

(事務局) 一応どちらもおさえていると思います。

(橋本町長) 秋の公民館クラブ発表もありますし、そういう意見も聞かれると思います。

(高寄教育長) 今年は町制60周年ということで、いろんな行事が60周年という冠をいただいて実施されていくと思います。今年の上野忌も60周年という冠をいただいて、例年2日間で実施していたものを1日増やして3日間にして、3日目には日本と韓国の民俗学者が福崎町のエルデホールに集まって、日韓による学術交流会議をしていただいて、広く町民あるいは県内外の民俗学に関係のある人に見に来ていただくと考えています。1日目・2日目はほぼ例年のような形ですすめていき、3日目には今のところ韓国から12名、国内から8名の民俗学者に来ていただき、1人30分のテーマで発表していただきます。それを午前9時頃から午後3時頃まで3日目にやりたいと考えています。町長のお計らいで予算も認めていただいておりますので、民俗学の国際化ということで今年取り組んでいきたいと考えています。一応、本年1年限りのメニューです。来年は申し訳ありませんが、やりません。8月6日・7日・8日です。

(委員) 8日に今おっしゃった交流会議をされるのですね。

(高寄教育長) 自分たちだけでもやりたいとおっしゃっているのですが、同じしていただくなら見たいという方に来ていただきたいと考えています。あくまでメインは6日と7日です。

(橋本町長) 6日は石井先生の基調講演を含めて記念講演が開かれます。7日は安芸高田の広島神楽です。それでは、1点目の柳田國男・松岡家記念館事業について、井上通泰展、柳田國男検定が行われ、初級・中級・上級が実施され、上級検定では最高得点者に対しては遠野の旅をとということで旅行券の進呈をとということになっています。

(高寄教育長) これもちょうど3年目を迎えます、3年前に初級、去年に中級、今年に上級ということで、初級を受ける方、中級を受ける方、上級を受ける方、柳田國男さんに関する知識をより広められるのもいいのかなと思います。

(橋本町長) 検定日はきまっていますか。

(高寄教育長) いつも2日目に実施しています。7日の午前中に検定を行い、午後神楽等民俗学の行事を行います。

(橋本町長) これは町内外の方を問いませんね。

(高寄教育長) 問いません。

(橋本町長) 続きまして、三木家公開準備事業です。平成29年度の主屋公開に向けた準備の中で、パンフレットやレプリカや展示ケースの購入等ということになっていますが、公開するにあたって、消防設備等の工事や、隣の登録文化財の郵便局の移築問題、それから三木家住宅の東側の日下さん宅の取得等、いろいろな問題点はまだあります。移築問題については、できればJR周辺整備における都市再生事業で行っていききたいなとも思っています。そういった中で駅周辺における整備箇所については観光案内所ができ、それらがルートの的に三木家や辻川界限の方へ引っ張っていくという展開も検討を加えています。都市再生の方ではそういったことを含めた中でお願いしますと先般国土交通省にも陳情したところです。課長、郵便局移築保存のことについて、何か聞いておられますか。

(事務局) 場所の選定はまだこれからと聞いています。解体後については、三木家の南側で取りあえず一時保存すると聞いています。

(橋本町長) 日下さん宅はどういう対応になるのか。声かけをしたい時期があれば私に



も声をかけてください。多分一番親しいのは私だと思います。若いときのスキーの仲間ですし、私の高校時代のバスケットボールの先輩です。年はだいぶはなれていますが。あと、辻川界隈の関係では、地域振興や教育委員会で所管がそれぞれわかれています。その対応の在り方に検討を加えてほしいとお願いしていますが、歴史的建造物等の分野は文化という中で教育委員会ということですが、新しい文化というのか、流行部分が今たくさん辻川界隈の中に入ってきています。かっぱしかり、天狗しかり、と。そういう事柄とともに、やはり辻川界隈はそういうにぎわいのある場所である、観光の場所であるということもあります。もちむぎのやかた、銀の馬車道のところ、竹村商店さんという八百屋さんがあります。そういったところを居酒屋風や喫茶店風でもないのですが、そういう形にして憩うような展開でありますとか、東三木家においても、のどかな形の中で憩っていただくような事業展開を図りたいと思っています。おもてなしの観光という形の中での期待感ということもあるわけです。

(高寄教育長) いい雰囲気の中で話し合いができていますが、町長の次の予定も来ているので、もう1分か2分で委員さんの中で何か意見ございましたらどうぞ。

(橋本町長) 全体として何か意見ありましたらどうぞ。

(委員) 一ついいですか。要望です。福崎町は幼稚園、小学校、中学校、おまけに高校も大学まであります。そういう魅力が非常にあります。そうした人たちの利便性と今後のために、多分いろいろな形で計画がすすんでいると思うのですが、福崎駅前や憩うところには外灯が非常にあるのですが、少し離れると外灯がありません。防犯上の問題として外灯はつけられませんか。高岡や八千種から高校生も通学しています。

(橋本町長) 通学路対策としては、PTAから要望をいただき、ご承知のように防犯灯はつけています。また、福崎西中の通学路の防犯灯について、通路の反対側についているということにも対応させていただきました。今後については、LEDに切り替えをしていくということで平成28年度もそういう予算化はおそらくしてあると思います。

(委員) もう一つここで言っているのかわかりませんが、福崎駅にはエレベーターは要望できないのですか。

(橋本町長) そこまでは福崎町の財政力ではできません。今現在、JR福崎駅周辺整備を5か年でやろうというのが精一杯の福崎町の財政力です。それ以上は私はいくら頑張ってもできません。

(委員) 老人やいろいろな人が出てきたときに、最初にそういうものが使えたらいいのにと思いました。

(橋本町長) 橋上駅等は、第2・第3段階における検討事項です。まずは周辺整備を行わなければなりません。それとともに内水対策です。福崎駅周辺整備をすることによって、また保水能力がなくなりますので、それらを七種川までひっぱっていく水路の整備のほうが先に急がれます。橋上駅そのものについては、JRにいくら要望してもJRは一銭も出しません。

(委員) こちらの財布ですか。

(橋本町長) 電化したときも、国の補助金・県の補助金をいただきながら、町が負担して行ったのですが、JRが負担すべきものは町が借入れを起こしてJRに無利子で貸しました。本来は一括で還してもらわなければなりません。多分時期到来のときには借り換えということで、JRは一銭も出さないということになると思います。JRは非常に厳しいです。それでは、申し訳ありませんが私はここで退席させていただきます。教育長、一度、総合教育会議を閉じていただけますか。

## 7、閉会

(高寄教育長) 町長にはスケジュールが混んでいる中、大変ご無理を申し上げまして第3回の総合教育会議を開催させていただきました。町長のほうから町長の思いなり、町の現状を伝えていただき、また私たち委員もそれを聞かせていただき、1つ2つの要望もだしてお話しさせていただいたと思います。他の市町にも聞いてみますと総合教育会議はだいたい年間2回から4回というのが中播磨地域はほとんどです。一度今年はこれでおきまして、来年度、また平成28年度の新たな教育委員会の取り組みを町長含め話しあいまして、福崎町の教育の向上のために、子どもの幸せのために頑張っていきたいと思います。本日第3回をこれにて閉じさせていただきます。ありがとうございました。

以 上

署名委員 高 寄 十 郎

署名委員 谷 口 喜久美